

平成19年度  
災害ボランティア活動の安全衛生に関する調査  
速報版

も く じ

<b>1 . 安全衛生に関わる資機材・物資について</b> .....	<b>1</b>
( 1 ) 調達した資機材・物資と調達先 .....	1
( 2 ) 調達のきっかけ .....	3
( 3 ) 調達の際困ったこと等 .....	4
<b>2 . ボランティア活動の安全衛生に関する配慮</b> .....	<b>6</b>
( 1 ) ケガ・疾病の予防、健康管理について .....	6
( 2 ) 周知のための対策 .....	11
<b>3 . ケガ、疾病の実例等</b> .....	<b>12</b>
( 1 ) ケガ・疾病の実例の有無 .....	12
( 2 ) 専門家への相談 .....	13
<b>4 . その他</b> .....	<b>15</b>
( 1 ) 自由回答一覧 .....	15

内閣府は、平成17・18年度設置された災害ボランティアセンターを対象に災害ボランティア活動の安全衛生に関する対応等について、その現状把握や課題を把握するために、アンケート調査を実施した。

実施期間 平成19年6月6日～6月15日

対 象 平成17・18年度風水害によって設置された災害ボランティアセンター<sup>1</sup>

調査方法 災害ボランティアセンターの設置・運営に関わった県・市・町社会福祉協議会へのアンケート（全国社会福祉協議会の協力を得る）、FAX および郵送による回収

回 収 36センター中 **26センター（72%）**

締切り後の回答もあり、回答率は上がる見込み

<sup>1</sup> 平成17・18年度に設置された災害ボランティアセンターを対象にしたアンケート調査  
<http://bousai-vol.jp/hint/index.html> で公開

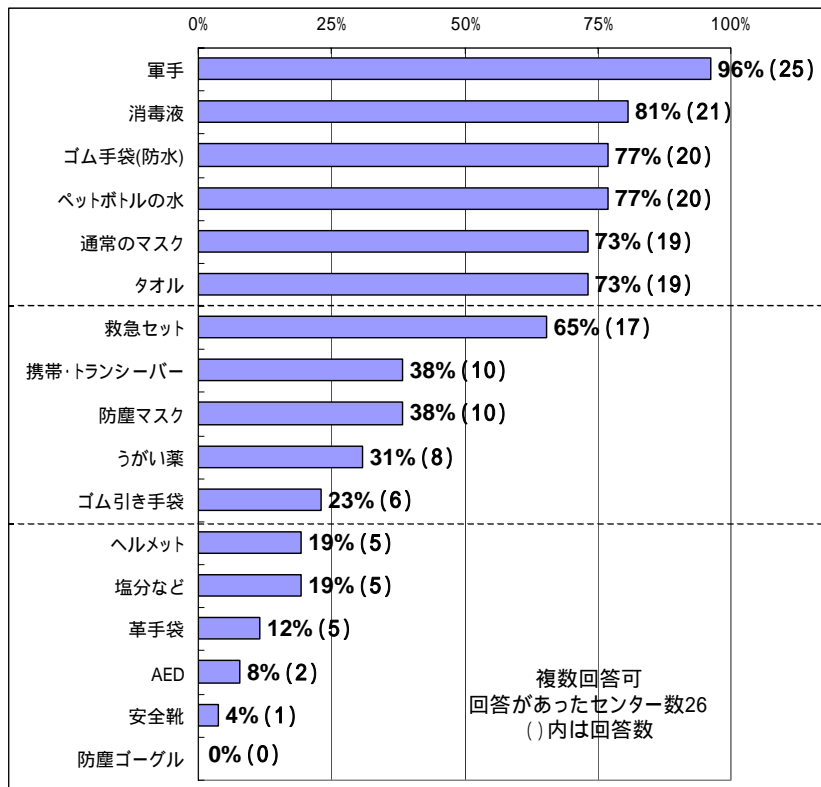
# 1. 安全衛生に関わる資機材・物資について

## (1) 調達した資機材・物資と調達先

### 設問

問1-1 災害ボランティアセンター（以下、「センター」と呼ぶ）等で準備した用品につき、回答欄に を入れ、その大まかな数量と、主な調達先をお答えください。調達先については、「備蓄済み」「(.....)から受領」「地元商店から購入」などとお書きください。

図1 準備した安全衛生に関わる資機材・物資



### 準備する割合が多かった資機材・物資

- 9 割台 「軍手」(準備しなかったのは1センターのみ)
- 8 割台 「消毒液」
- 7 割台 「ゴム手袋(防水)」「ペットボトルの水」「通常のマスク」「タオル」

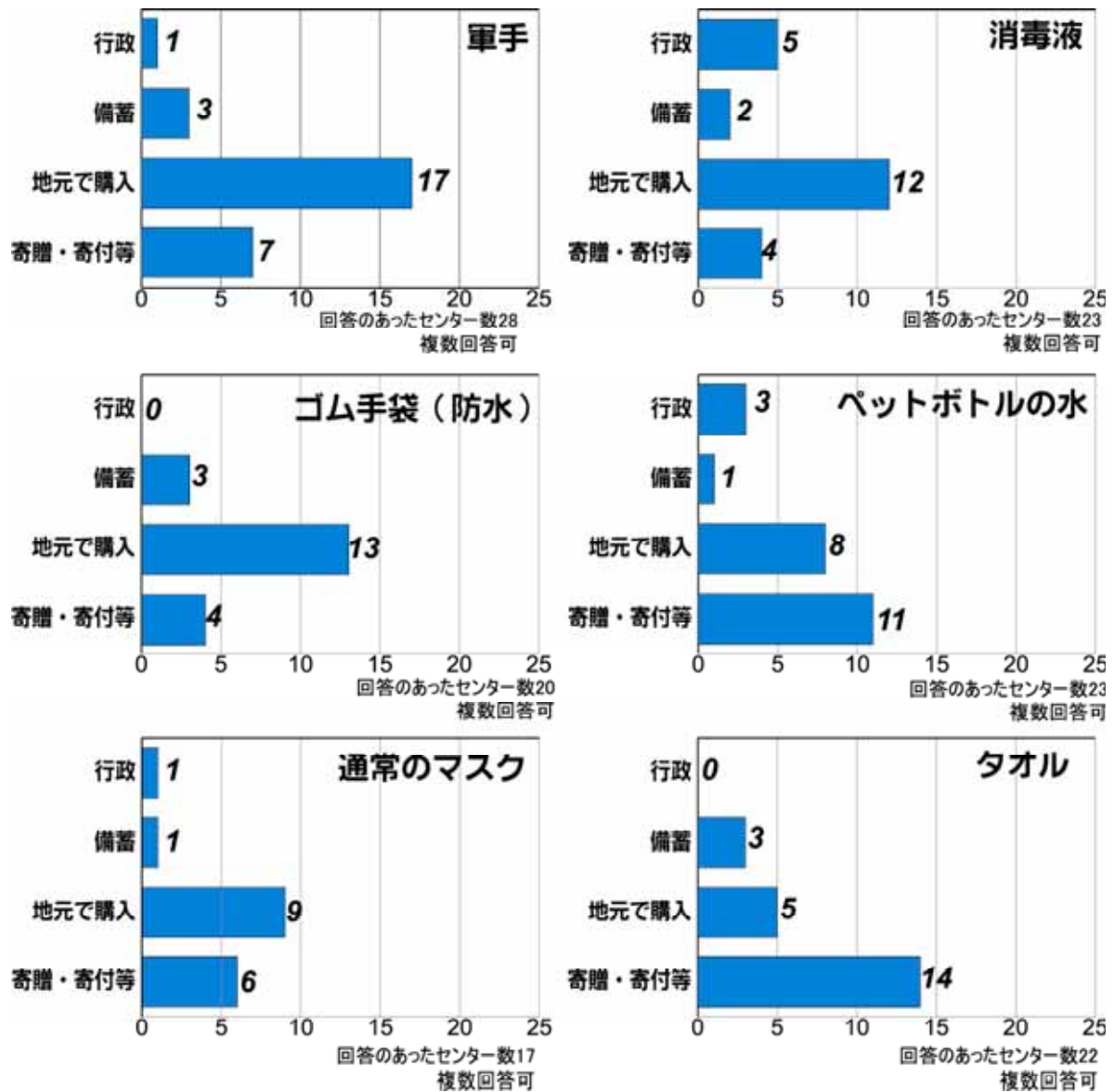
### 準備する割合が低かった資機材・物資

- ゼロ 「防塵ゴーグル」
- 2 割以下 「安全靴」「AED」「革手袋」「塩分など」「ヘルメット」

### 自由回答

- 「日用品セット」
- 「トイレトペーパー」
- 「消毒用石けん」
- 「ハロゲンライト三脚付き」
- 「照明器具」
- 「インバーター発電機」
- 「ごみ袋」
- 「ビニールシート」
- 「梅干、飴」
- 「石灰」
- 「スリッパ」

図2 安全衛生に関わる資機材・物資の調達先



過半数以上のセンターで準備した安全衛生に関する資機材・物資（6種類）の調達先としては、地元で購入した割合がやや多い傾向にある。つまり、災害発生後に調達したものであり、それに比べ、事前に備蓄している割合は少ない。

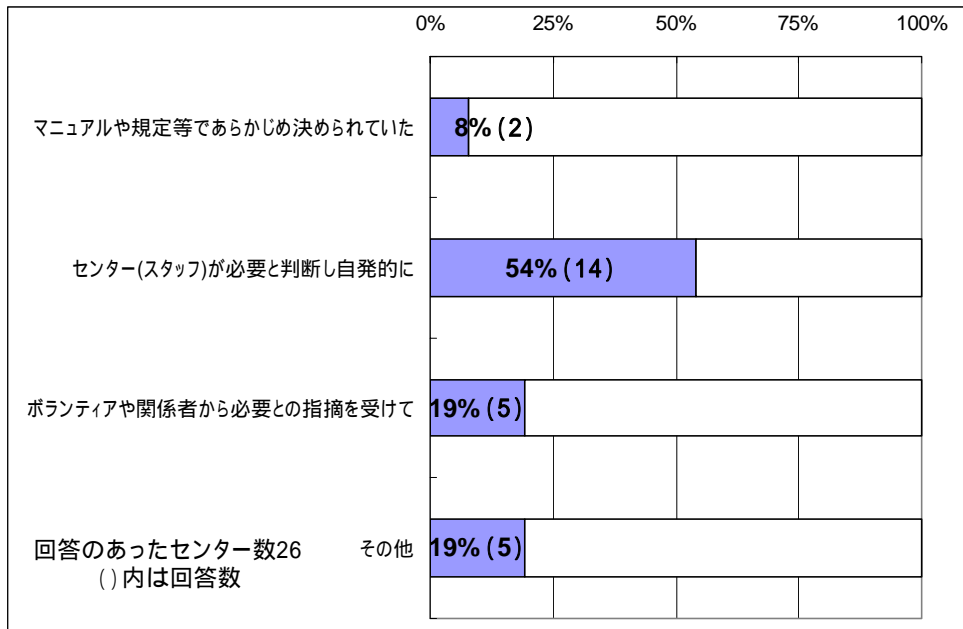
その他は、企業からの寄贈や支援物資、救援物資として入手したものであった。

( 2 ) 調達の手続き

**設問**

問 1 - 2 調達した手続はどのようなものですか。( ~ のいずれかの回答欄に を入れて下さい。)

**図 3 調達の手続の理由**



回答のあった約過半数のセンターで、センター（スタッフ）が必要と判断し、自発的に資機材・物資を調達した。

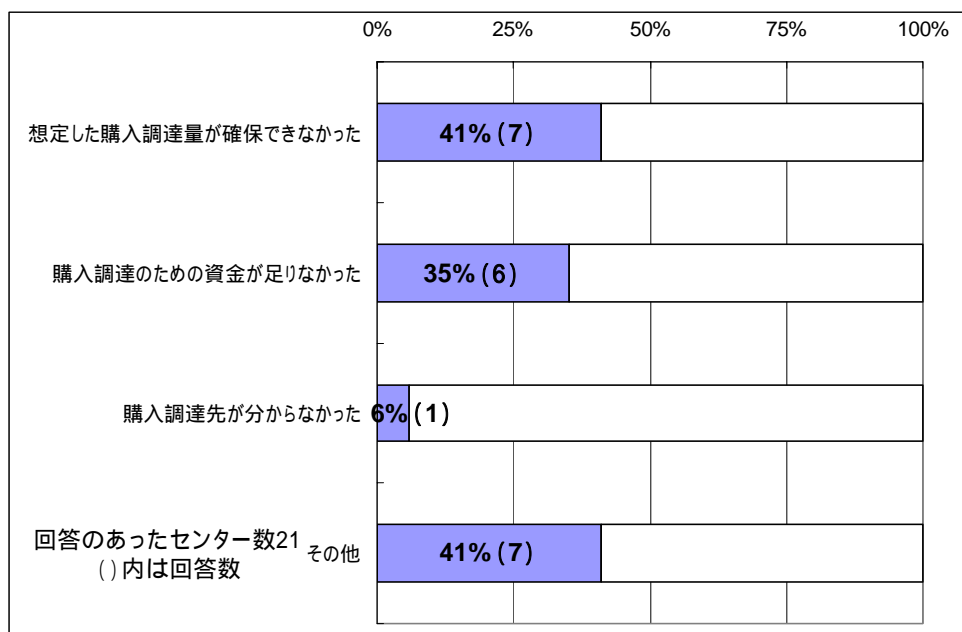
ボランティアや関係者から必要との指摘を受けた例や、マニュアルや規定で決められている例は全体の3割に満たない。

### ( 3 ) 調達の際困ったこと等

#### 設問

問 1 - 3 調達の際に困ったこと ( 複数回答可。 ~ の回答欄に を入れて下さい。 )

図 4 調達時に困ったこと



回答したセンターの 4 割程度が、想定した購入調達量が確保できなかった。また、購入調達のための資金が足りなかった。

「その他」の自由回答は下記の通り。

- ・ 大規模災害や調達数量が足りなくなると考えると、備蓄が必要と思うが数量の読みが分からない。
- ・ 防塵マスクについてはあまり性能が良すぎると息苦しくて、現場で外すボランティアが多かったので、値段との兼ね合いもあり銘柄を選ぶのに苦労した。
- ・ 初めてのことで何をどの程度調達したらいいのか分からなかった。
- ・ 想定していたボランティア数を大幅に超えた為、用品の調達を数回行った。
- ・ 調達する数量を想定できなかった。
- ・ 特に困っていない。( 2 )

## 設問

問 1 - 4 資金があれば調達したかったものは何でしょうか。(自由回答)

自由回答の一覧は下記の通り。( )内はコメントの数。

- 高圧洗浄機(4)
- 防塵マスク(2)
- ゴム手袋(3)
- 革手袋
- ヘルメット
- 安全靴、長靴
- 土のう袋
- 消毒液等、備蓄済み以外の医薬品、救急箱
- 軽トラックに積む給水用品、ペットボトルの水
- 製氷機(強力なもの)、冷蔵庫
- 軽トラック、一輪車
- トランシーバー
- 緊急連絡用の携帯電話(2)
- ファックス

## 設問

問 1 - 5 その他、ボランティアセンターの安全衛生のために必要な用品等があればお書きください。  
(自由回答)

自由回答の一覧は下記の通り。

- 厚手のゴム手袋
- 土のう袋、一輪車
- 高圧洗浄機
- 手洗い・うがい用の水、飲み水を保存する袋・入れ物
- 水道設備
- 仮設トイレ
- 消毒液、うがい薬(紙コップを含む)
- 寝具(圧縮タイプ)
- 虫除けスプレー
- スポーツ飲料

## 2. ボランティア活動の安全衛生に関する配慮

### (1) ケガ・疾病の予防、健康管理について

#### 設問

問2 - 1 災害ボランティア活動時のケガ・疾病予防や健康管理方法についての工夫をしたことがあれば、具体的な周知方法を下記の選択肢（X、A～E）から該当する全てを回答欄にお書き下さい。

（複数回答可）

- |   |                  |
|---|------------------|
| X | 特に周知のための手当はしなかった |
| A | センター内に張り紙等で掲示    |
| B | 紙にして参加者に資料配付     |
| C | 説明会を開催           |
| D | 現場リーダーに通達        |
| E | インターネットに掲示       |

図5 ケガ・疾病の予防・健康管理の実施の有無

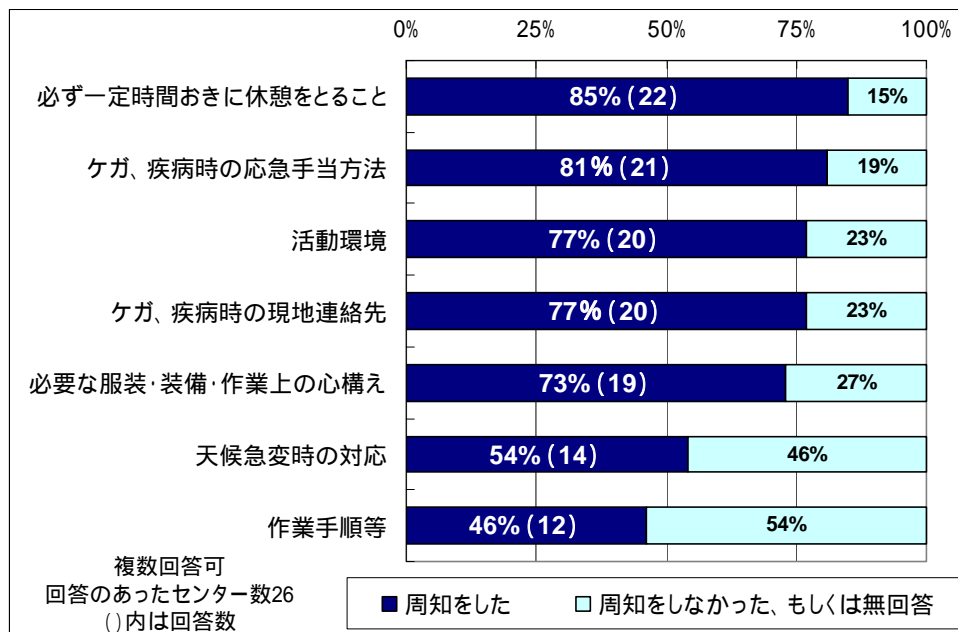
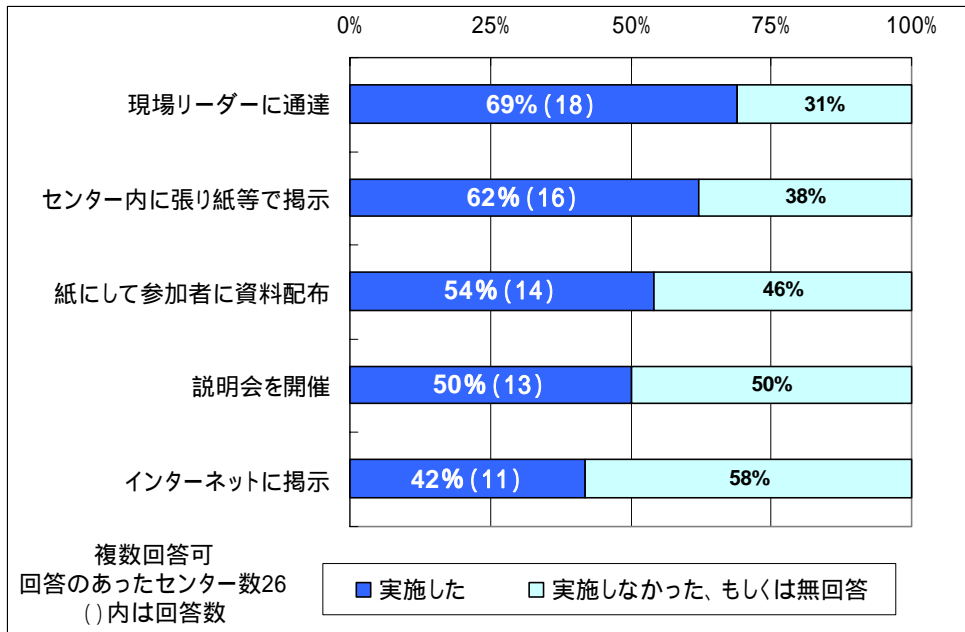


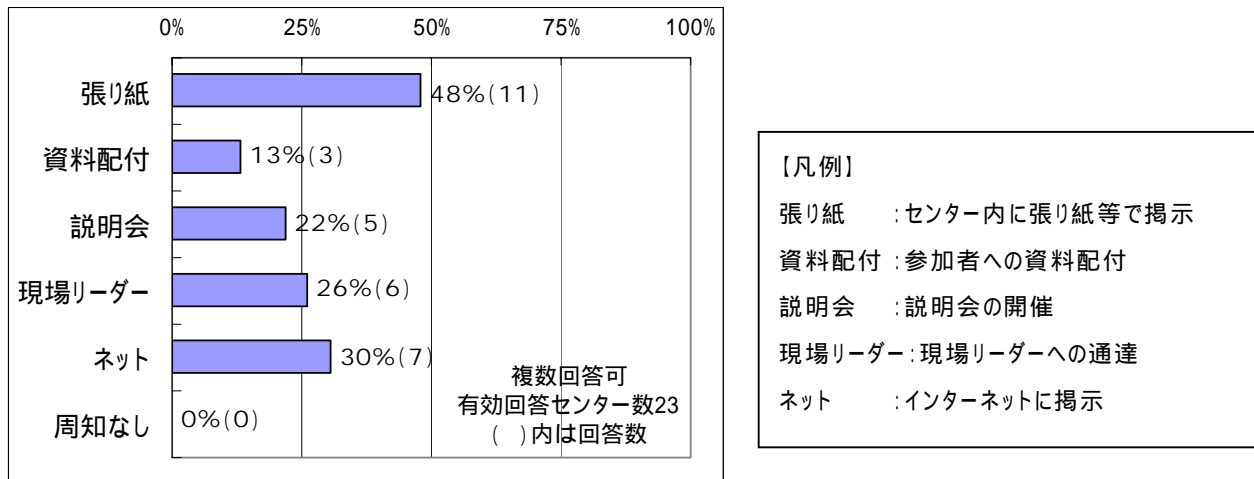
図6 ケガ・疾病の予防・健康管理方法に関する周知の有無



- ・ 「現場リーダーに通達」する周知方法が一番多く、現場での対応を優先する傾向がある。
- ・ ついで「紙にして参加者に資料配布」「説明会を開催」「センター内に張り紙等で掲示」などセンター内で事前に呼びかける方法が多い。また、インターネットに掲示した例は少ない。

活動環境（被災地の被害状況・天候など）

図7 活動環境（被災地の被害状況・天候など）に関する周知方法

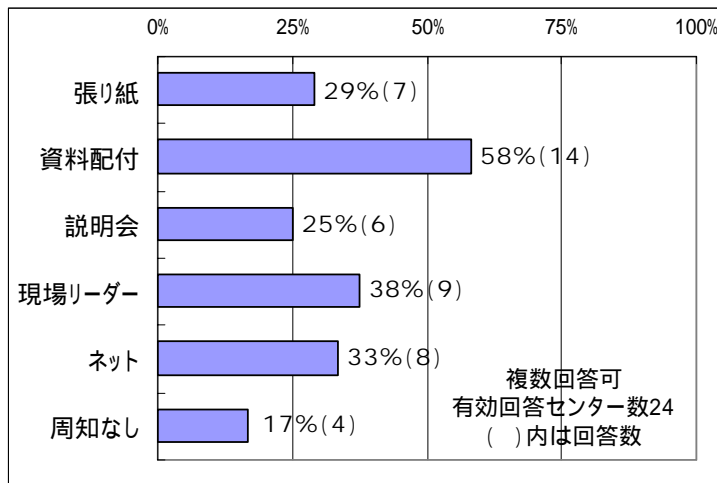


- ・ センター内に張り紙等で掲示した例が一番多く、ついでインターネットに掲示した例が多い。



## 必要な服装・装備・作業上の心構え

図 8 必要な服装・装備・作業上の心構えに関する周知方法



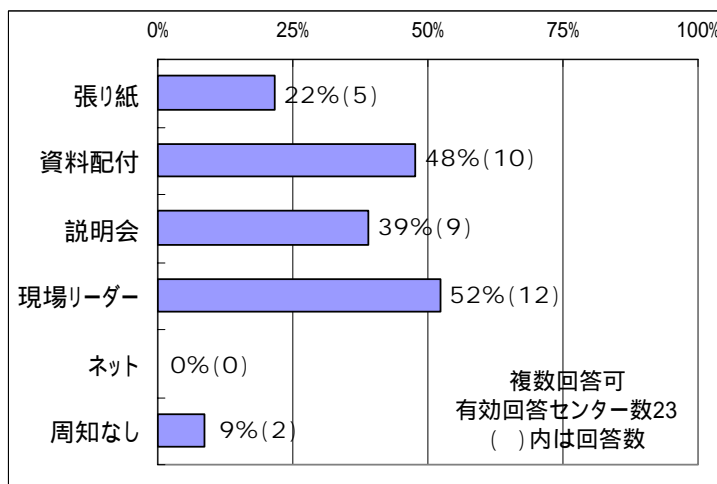
【凡例】

張り紙 : センター内に張り紙等で掲示  
 資料配付 : 参加者への資料配付  
 説明会 : 説明会の開催  
 現場リーダー : 現場リーダーへの通達  
 ネット : インターネットに掲示

- ・ 紙にして参加者に配布した例が多く、ついで、現場リーダーに通達する例が多い。
- ・ インターネットに掲示し、できるだけ事前周知を図ろうとしたと思われる例も全体の3割程度ある。

## 作業手順等

図 9 作業手順等に関する周知方法



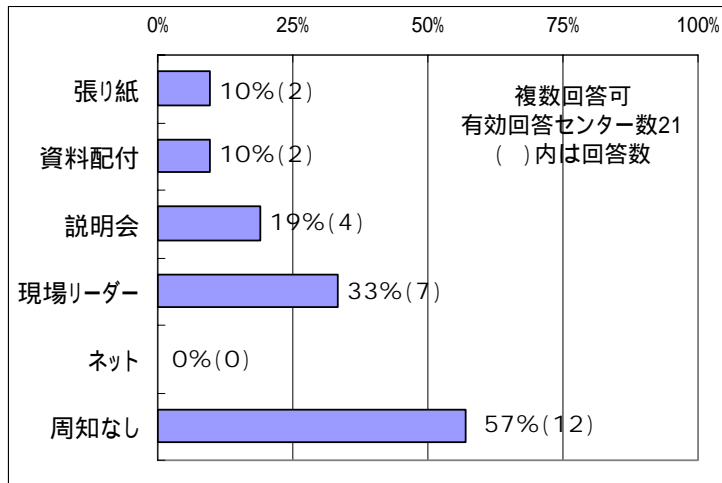
【凡例】

張り紙 : センター内に張り紙等で掲示  
 資料配付 : 参加者への資料配付  
 説明会 : 説明会の開催  
 現場リーダー : 現場リーダーへの通達  
 ネット : インターネットに掲示

- ・ 作業手順等については現場リーダーに通達する例が半数を占めるほか、紙にして参加者に資料配付した例が多い。

## ケガ、疾病時の応急手当法

図 10 ケガ、疾病時の応急手当法に関する周知方法

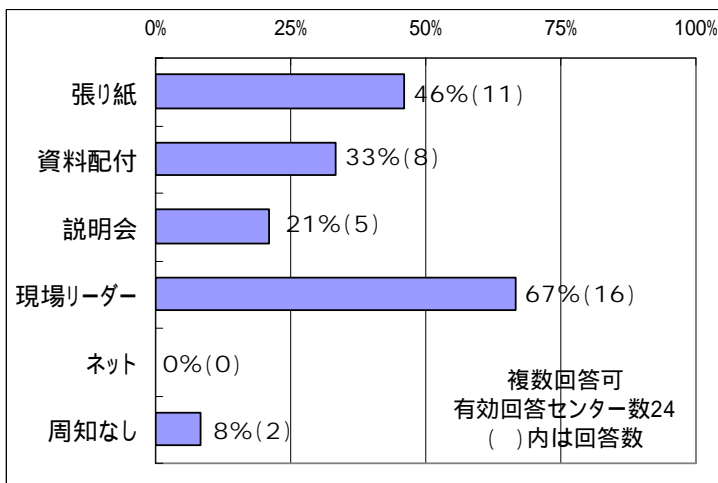


【凡例】  
 張り紙 : センター内に張り紙等で掲示  
 資料配付 : 参加者への資料配付  
 説明会 : 説明会の開催  
 現場リーダー : 現場リーダーへの通達  
 ネット : インターネットに掲示

- ・ 半数以上が特に周知のための手当てをしなかった。
- ・ 回答したセンターの3割が現場リーダーへ通達することで周知を図った。

## ケガ、疾病時の現地連絡先（センターの救護所等）

図 11 ケガ、疾病時の現地連絡先（センターの救護所等）に関する周知方法

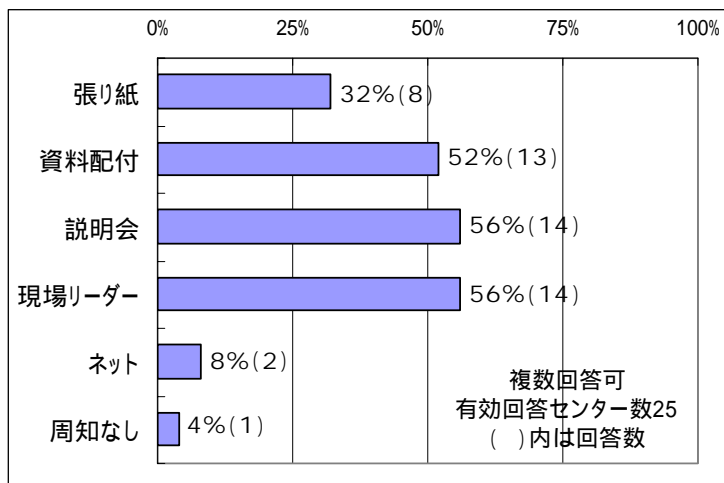


【凡例】  
 張り紙 : センター内に張り紙等で掲示  
 資料配付 : 参加者への資料配付  
 説明会 : 説明会の開催  
 現場リーダー : 現場リーダーへの通達  
 ネット : インターネットに掲示

- ・ 現地連絡先は、現場リーダーに通達する例が多く、ついで、張り紙等で掲示した例が多い。

## 必ず一定時間おきに休憩とること

図 12 必ず一定時間おきに休憩とることに関する周知方法

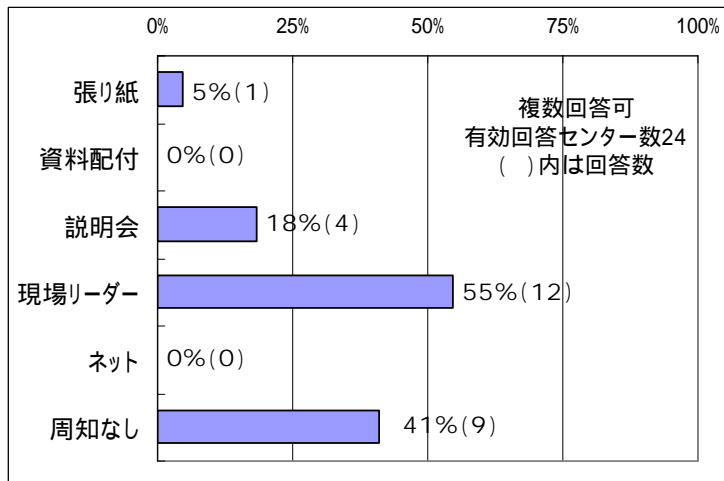


【凡例】  
 張り紙 : センター内に張り紙等で掲示  
 資料配付 : 参加者への資料配付  
 説明会 : 説明会の開催  
 現場リーダー : 現場リーダーへの通達  
 ネット : インターネットに掲示

- ・ 休憩については、参加者への資料配付、説明会の開催、現場リーダーへの通達など徹底して周知を図っている。

## 天候急変時の対応

図 13 天候急変時の対応に関する周知方法



【凡例】  
 張り紙 : センター内に張り紙等で掲示  
 資料配付 : 参加者への資料配付  
 説明会 : 説明会の開催  
 現場リーダー : 現場リーダーへの通達  
 ネット : インターネットに掲示

- ・ 現場リーダーに通達した例が多いが、一方で周知のための手当てをしていない例も多い。

( 2 ) 周知のための対策

**設問**

問 2 - 2 その他、活動時のケガ・疾病予防方法の周知のためにとった対策があればお書き下さい。  
(自由回答)

活動する前にセンターで受付、オリエンテーションをする際に呼びかけるほか、活動現場を巡回し呼びかけることや活動後の衛生面の管理など、様々なシーンで安全衛生に配慮した対策がとられている。そのほか、ニーズを申し出た依頼者への説明をした例もあった。

下記、「活動前」「巡回」「活動に関する配慮」「衛生面の配慮」等にわけて整理した。

分類	対策の内容
活動前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア受付時に保険の加入の有無を聞き未加入の時は加入した。(3)</li> <li>・ 活動に出発する前のオリエンテーションで注意を促した。</li> <li>・ 活動前のオリエンテーションで、資料配布とともにアナウンス。</li> <li>・ センター開設当初から呼びかけたが、休まない人もいたため、必ず休むよう声かけなど徹底した。</li> <li>・ 保健師の協力によって、作業から帰ってきた方に休憩場所(保健センター)を提供し、血圧測定等も必要に応じて実施した。</li> <li>・ ボランティア受付時に、記載台に張り紙をし、水分補給等の注意の呼びかけを行った。</li> </ul>
巡回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアセンタースタッフ等による巡回。</li> <li>・ 活動中もそれぞれの活動現場を回ってアナウンス。</li> <li>・ スタッフが各ボランティアの活動場所へ水を配るときに、ボランティアへの声かけ、リーダーに定期的に休憩を取るよう指導して回った。</li> <li>・ 活動しているボランティアに注意を呼びかける。</li> <li>・ ボランティア一人一人への声かけ。</li> </ul>
活動に関する配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱中症予防のため、看護師の指導により食塩水やスポーツドリンクを作り、班毎に持たせた。</li> <li>・ 非常に暑い中での作業だったので、熱中症等に大変気を遣った。</li> <li>・ ある程度の時間が経過したところで、ボランティアリーダーの方に連絡し作業状況や体調不良の人はいないか等、確認をとった。</li> </ul>
衛生面の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動後、靴の洗浄とうがいは必ずさせた。</li> <li>・ 作業から戻ってこられたら必ず消毒をするよう呼びかけた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニーズを受ける際、活動依頼者にもボランティアが休憩時間を取ることに關して理解を求めた。</li> </ul>

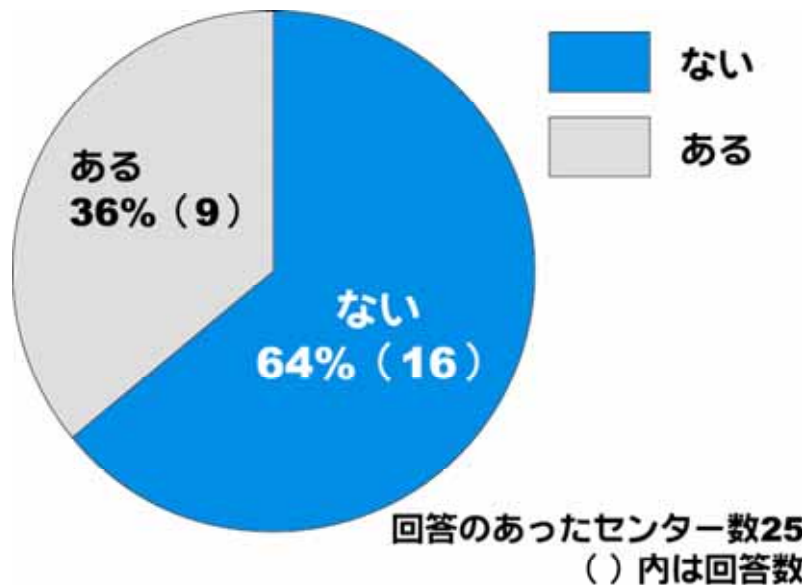
### 3 . ケガ、疾病の実例等

#### ( 1 ) ケガ・疾病の実例の有無

##### 設問

問 3 - 1 貴災害ボランティアセンター等の活動中に、ケガや疾病が発生したことがありますか。( 該当する選択肢に を記入して下さい。)

図 14 災害ボランティア活動におけるケガ・疾病の発生の有無

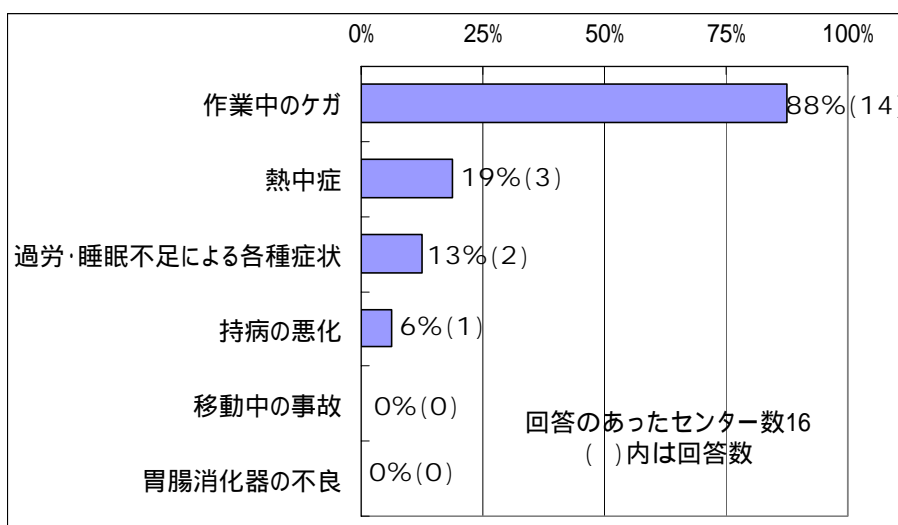


半数以上のセンターで、ケガ・疾病の発生がなかった。一方、およそ4割のセンターでケガ・疾病の事例があった。

##### 設問

問 3 - 2 どのようなケガ・疾病だったでしょうか。該当する番号すべての回答欄に「 」を入れて下さい。( 複数回答可 )

図 15 ケガ・疾病の内容

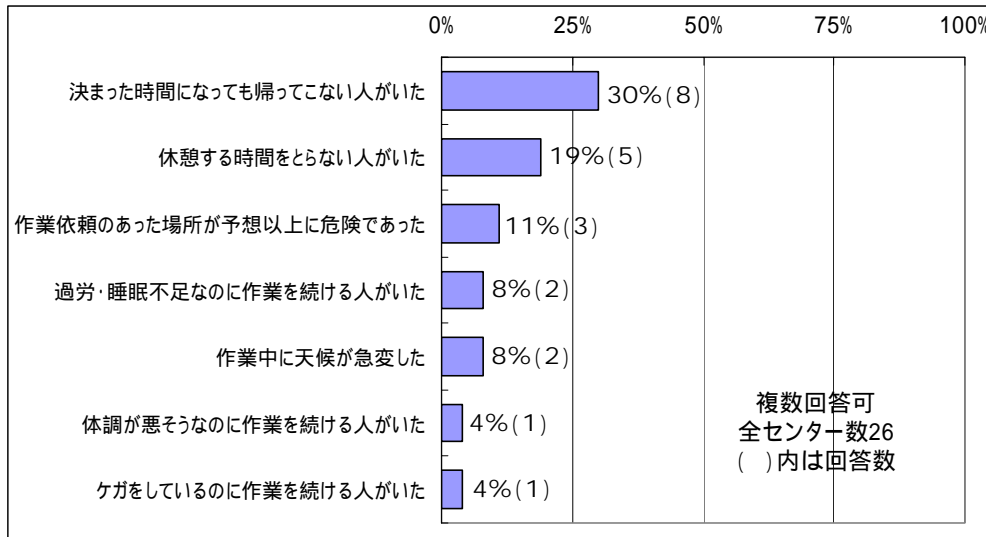


- 作業中のケガが一番多く、熱中症、過労・睡眠不足等も数例あった。

**設問**

問3 - 3 下記の様な事例があれば、該当する番号すべての回答欄に「 」を入れて下さい。(複数回答可)

図16 対処に困った例



- ・ 回答した半数のセンターで、決まった時間になっても帰ってこない人がいた。
- ・ 休憩する時間をとらないなどの例もいくつかのセンターで例があった。

(2) 専門家への相談

**設問**

問3 - 4 災害ボランティア活動の安全衛生について、どんな専門家に相談しましたか。該当する番号すべての回答欄に「 」を入れて下さい。(複数回答可)

図17 専門家への相談の有無

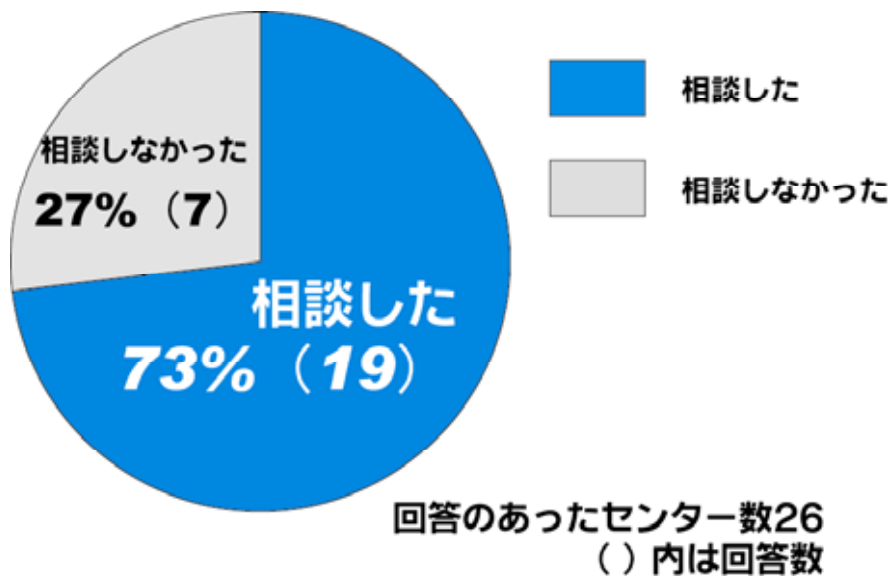
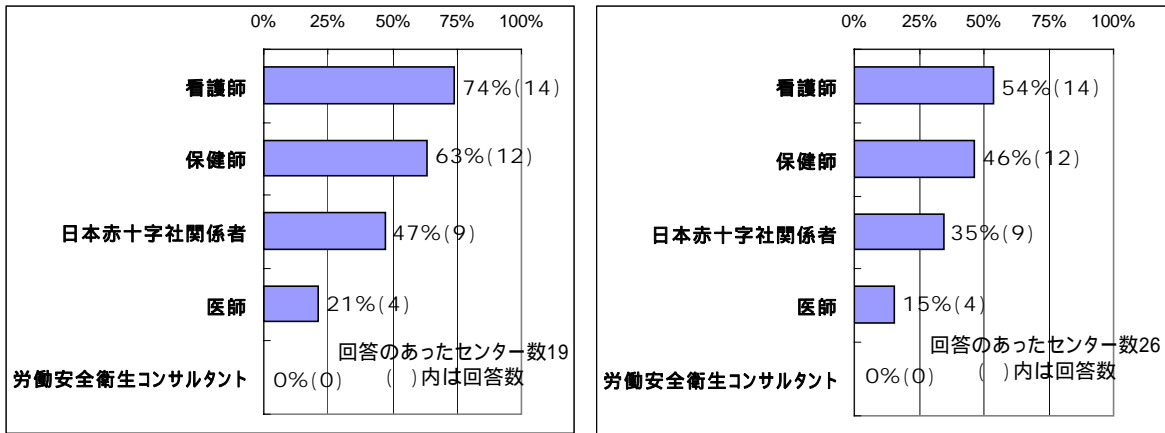


図 18 相談した専門家



左：相談したと回答のあった 19 センターを母数として比率を算出

右：相談の有無に関わらず回答のあった 26 全てのセンターを母数として比率を算出

- ・ 回答したセンターの約 7 割が専門家に相談している。
- ・ 相談をしたと回答のあった 19 センターを母数とした場合、相談した相手は、看護師が 7 割、保健師が 6 割、日本赤十字社関係者が 3 割程度となっている。

## 4 . その他

### ( 1 ) 自由回答一覧

#### 設問

問4 安全な災害ボランティアセンターの運営や災害ボランティア活動の安全衛生の確保等について、役だったノウハウ、あってよかった用品、課題反省、提案、感想等があれば、ご自由にお書き下さい。

- ・ 【専門家】災害ボランティアセンターの安全衛生について相談できる専任の専門家が必要。
- ・ 【専門家】看護師が常駐し健康診断等を行う必要があると感じた。
- ・ 【専門家】看護師がボランティアとして参加して、衛生面の配慮ができるようになった。
- ・ 【専門家】被害があった学校では保健の先生の協力は役立った。
- ・ 【役立つノウハウ情報】県社協が作成していたボランティア活動支援マニュアルが役立った
- ・ 【役立つノウハウ情報】県ボラからいただいていたマニュアルの見本が役立った。
- ・ 【役立つノウハウ情報】ボランティアの安全衛生のマニュアルが提供されることを期待したい。
- ・ 【役立つノウハウ情報】仮設の水道設置ノウハウが特に役に立った。
- ・ 【資機材】作業中についたヘドロなどの洗浄に高圧洗浄機は役立った。
- ・ 【資機材】災害時には（大量に購入するため）うがい薬や消毒液の購入に結構なお金がかかる。
- ・ 【資機材】ゴム手袋は厚手のものが役立ったが、単価が高くたくさん購入できなかった。
- ・ 【資機材】ヘルメット、防災無線、消毒液、うがい薬、紙コップ、ビニール手袋、軍手、マスク、タオル等の消耗品の備蓄に努めている。
- ・ 【資機材】衛生に関する物品等を購入し、準備することが必要。
- ・ 【資機材】物資は備蓄しておきたいが保管しておく場所がなく困っている。
- ・ 【資機材】タオル、バスタオルは必要な用品。
- ・ 【資機材】小さいサイズ（500ml）のペットボトルの水やあめ等は必要。
- ・ 【資機材】消毒液、うがい薬に関しては手配が行き届かなかった。
- ・ 【健康面の配慮】着替えの必要性について、広報等で募集をするとき周知する必要があった。
- ・ 【健康面の配慮】熱中症、疲労の配慮について現場より指摘があるまで配慮できなかった。
- ・ 【健康面の配慮】保管場所、お弁当の中身に対する配慮が必要（特に夏季）。
- ・ 【救護班の設置】各市町村災害ボランティアセンターに救護班の設置を指導。
- ・ 【救護班の設置】現地本部(サテライトセンター)地元救護関係者と連携して救護班の設置。
- ・ 【衛生面の配慮】足洗い場の確保、シャワー室の準備をした。
- ・ 【安全面の配慮】ボランティアの安全を考えた時依頼を断ることも数件あった。



## 災害ボランティア活動の安全衛生に関するアンケート調査速報（結果概要）

- ・ ほとんどのセンターで、安全衛生に関する資機材・物資を調達しており、その多くは地元で購入した割合が多い。
- ・ 調達のきっかけは、センタースタッフが必要と判断したケースが半数を占めており、マニュアルや規定等で決められているケースは1割に満たない。
- ・ 物資の調達量が足りない、購入する資金が足りない例もあった。
- ・ 安全衛生上、高圧洗浄機が必要とのコメントがあった。
- ・ ケガ・疾病の予防・健康管理については、様々な形で対応している。現場のリーダーの判断にゆだねるケース、張り紙等で掲示するケースが全般的に多く見られた。
- ・ ボランティア活動においては、ケガ・疾病が発生したセンターは全体の4割。特に作業中のケガの割合が多い。
- ・ 回答したセンターの半数で、ケガ・疾病につながる恐れのある、困った出来事が起きている（休憩する時間をとらない人がいた等）。
- ・ 回答したセンターの7割が、看護師や保健師等の専門家に安全衛生に関する相談をしている。
- ・ ボランティア活動の安全衛生に関する情報が少ないため、マニュアルの整備や情報提供を望む声があった。